

特集 未踏ユースから育ったタレントたち

6

未踏後：気の向くままに

赤塚 大典 一般社団法人 Mozilla Japan

1976年東京生。蕎麦屋、溶接屋を経てプログラマーになる。2011年慶應義塾大学 SFC 政策・メディア研究科修士課程修了。Web と実世界をキーワードに研究を行う。US Mozilla の Jetpack アンバサダ。daisuke@mozilla-japan.org

未踏ユースでは、2003年度 Java で非矩形ウィンドウを作成可能なライブラリを開発しました。また2006年度は、弱い紐帯に注目したコミュニケーションメディアの開発を目的に未踏本体に採択され、開発成果の公開直後は数百人かの方々に利用していただきましたが、これからか？というときに Twitter の登場と爆発的普及、「ああ、そっちか」と思ったことも良い思い出です。

慶應義塾大学院生として

ちょうど本稿の締切りと修士課程の修了式が同じ日になったのも何かの縁かもしれません。私は都立航空工業高等専門学校を卒業したのち、蕎麦屋、アルミ溶接工を経てプログラマーになり、京阪奈地区で7年間プログラムを書きました。その後、かねてから大学生になってみたいという願望もあり、2009年慶應義塾大学 SFC の修士課程（政策・メディア研究科）へ進学しました。

大学院では寛康明研究室に所属し、「ミュージアムにおける実世界情報とウェブ情報の連携による鑑賞体験支援」として、“実世界”と“Web”をキーワードに研究を行いました。私たちは実世界情報だけでなく Web 情報も参考としながら生活しているにもかかわらず、情報空間が分断されていることを問題意識とし、双方をつなぎ合わせた環境の構築とその影響を調べることを目的としました。実践的な場面としてミュージアムでの鑑賞体験に注目、鑑賞体験は会場に滞在している時間だ

けではなく、その前後も重要な体験であるとし、鑑賞者の行動を鑑賞前・鑑賞中・鑑賞後の状態に分けて考え、それぞれのコンテキストをつなげるというアプローチを取りました。そして、この連携がソーシャル化することで、Web と実世界の交じり合った新たな価値を持つコンテンツの創出や新しい UGC (User Generated Contents) の枠組みができないかと考えています。

Mozilla Japan の一員として

現在は、未踏本体で Firefox の拡張機能を開発したこともあり Mozilla Japan の一員として、Web やブラウザの新しい使い方などについての研究やワークショップの開催、その時々 Web 最新技術を使ったデモなどを開発しています。

最近では、「Firefox の灯」^{☆1} というサイトを公開しました。日本での Firefox^{☆2} のダウンロード状況をほぼリアルタイムに視覚化する Web アプリケーションで、ダウンロードされる際のアクセスポイントから大まかな地域を特定、ダウンロード状況を地図上に灯に見立て表現します。従来、文字情報でしかなかった Web のアクセス情報を視覚化することにより、数字や文字だけでは伝えることが難しかった臨場感や雰囲気を得る“感じるダウンロード”をテーマに制作しました。技術面では、最新の Web 標準技術となる HTML Canvas, CSS Transform, CSS Transition, SVG, SVG Filter によって視覚的な部分を担い、Firefox で先行実装された Audio Data API を利用することでリアルタイムに音を生成、聴覚的な表現も実現しました。

今後の活動

今後も Web やその考えを軸に持ちつつも、Web の枠にとどまらず事物を考えていきたいです。

(2011年9月16日受付)



図-1 Firefox の灯

☆1 Firefox の灯, <http://tomoshihi.mozilla.jp/>

☆2 Firefox, <http://mozilla.jp/firefox/>